



博物館の水庭

横倉山自然の森博物館は1997年10月に、開館しました。開館から20年以上が経ち、博物館のまわりに植えられた木々が大きく成長しました。開館当時は仁淀川のほとりの宮の前公園から博物館が見えていましたが、今では大きく育った木々に隠れて博物館の上の方が見えるだけになってきました。当館の設計コンセプトである「ゆくゆくは木々に覆われる博物館」に、いよいよ近づいてきた感じです。そして、安藤建築の特徴の一つである水庭。当博物館にも備わっていて、面積およそ470㎡の水面が博物館を囲むように広がっています。深さは15cmくらいで、コンクリートで固められた4段のマスに、石灰岩が敷き詰められています。溜まっている水は循環していて、一番下の段の出水口から濾過槽に流れ落ちた後、ポンプを使って地下の配管を通じて一番上の段の床から湧き出すようになっています。木々が大きくなるに伴い落葉も多くなってきて、毎年多くの葉が水庭に入り込んでいます。今の水庭は、まるで林の中の泉のようです。

春から秋にかけての期間、水庭を見ていると、た

集めたヤゴの抜け殻

くさんのトンボが飛び、壁にはヤゴの抜け殻が付いています。私は、この水庭にどんなトンボがどれくらいいるのかを知りたくて、昨年の4月17日から、博物館に出勤したら仕事を始める前に水庭を見回って、壁についているヤゴの抜け殻を集め始めました。その結果、11月4日までの間に4679個の抜け殻を集めることができました。私がお休みで見回れないときや、私が見つかる前に水に落ちてしまう抜け殻もあったと思いますので、それらも合わせると令和2年度は5000頭くらいのトンボが博物館の水庭から飛び立っていったのではないかと思います。集めた抜け殻は、大きな瓶に詰めてとってあります。来年度は展示室に置きますので、ぜひご覧ください。

水庭ではトンボの他にも貝類、両生類、魚類など多くの生きものが暮らすようになってきました。横倉山は地形が急なために、池や大きな水たまりがありません。博物館の水庭が水生生物の生息環境となり、横倉山の生態系にとって重要な場所となってきました。

(やちもりしゅうじ／横倉山自然の森博物館学芸員)

横倉山とニホンリス

谷地森 秀二

○ニホンリスとは



ニホンリス

日本だけにすんでいるリスです。お腹が白く、背中夏には赤茶色、冬には灰色っぽい茶色に変わります。大きなふさふさの尻尾でバランスをとりながら、木の上をかけまわって暮らしています。秋になるとドングリを木の穴や大きな岩の隙間などに隠します。土を掘って地面に埋めてしまうこともあります。隠されたドングリは、冬の間大切な食べものとなりますが、中には春が来ても食べ残されるドングリがあります。そのようなドングリは、春になると芽を出して、育ち始めます。木は、自分の子どもであるドングリをニホンリスに遠くまで運んでもらっているのです。ニホンリスは、高知県の注目種に指定されています。

※高知県注目種 Noteworthy species

本県では、「絶滅」から「情報不足」までの各カテゴリー及び「絶滅のおそれのある地域個体群」のいずれにも該当しないが、特徴ある分布又は生息状況から本県の自然を代表すると考えられる種。

○ニホンリスがいる森とは

ニホンリスは、堅果^{けんか}、漿果^{しょうか}、花、葉、キノコ、昆虫など森林内で得られるさまざまな生

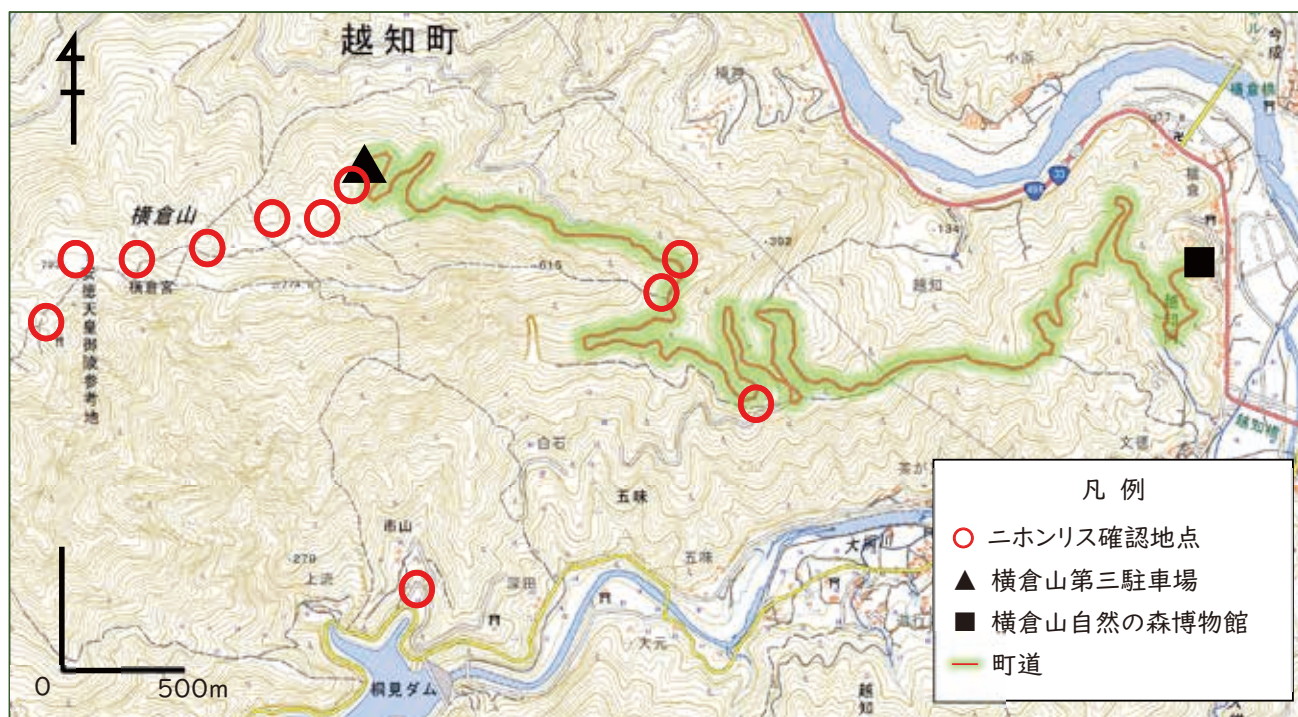
物を食物として利用しています。ニホンリスは冬眠をしないので、これらの食物を年間通じて得られる森林でなければ、生息できません。このことからニホンリスが生息する地域は、生物の多様性が高い森林とみなすことができます。

○横倉山のニホンリス

横倉山の上部に広がるアカガシ林を含む自然林で調査を行うと、ニホンリスの情報が多く得られます。一方で、町道に沿って標高を下げてくるとニホンリスの情報は少なくなり、博物館周辺での記録はこれまでに得られていません。その理由は、低い標高の地域はスギとヒノキの植林が広がり、ニホンリスが食べものを得ることができない森林になっているからだと考えられます。将来、横倉山の広い範囲でニホンリスの姿が見られるようにしたいと考えていて、そのためには横倉山の広い範囲を占めるスギとヒノキの植林地帯で間伐や択伐を行って、徐々に広葉樹も交じって生えている生物多様性が高い森林に転換してゆくことが必要です。



ニホンリスがすむ横倉山の森林



出展：国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図

横倉山周辺のニホンリスの情報

ニホンリスの情報は、標高が高い所では普通に得られますが、下りるに従って情報が減ってゆき、博物館や仁淀川のまわりではこれまで見つかっていません。ただし、横倉山南斜面の桐見ダムのほとりでは情報が得られています。この地域は、地形が急峻なために植林が行われず、自然林が残っているために、ニホンリスが下りて来ていると思われます。
(やちもりしゅうじ／横倉山自然の森博物館学芸員)

学芸員実習を終えて

谷地森秀二・学芸員実習生 9 名

博物館で働く学芸員の資格を得るために必要な学芸員実習、当館では令和 2 年度に高知大学から 9 名の実習生を受け入れました。実習は、9 月 21 日、22 日、10 月 4 日、11 月 1 日、29 日の計 5 日間でした。当館から提供した実習メニューは、以下のとおりです。

9 月 21 日 (月)

標本作製作業 1 (中型哺乳類計測・研究用サンプル採集・除肉)

9 月 22 日 (火)

野外からの情報収集(横倉山の空池周辺に設置している自動撮影装置の電池および SD カードの交換・回収した SD カードに記録された撮影内容確認)

10 月 4 日 (日)

標本作製作業 2 (骨標本クリーニング・標本箱作り)

博物館雑務

11 月 1 日 (日)

標本作製作業 3 (骨格標本への登録番号記入)

博物館雑務

11 月 29 日 (日)

展示作製 (各自、中型哺乳類一種を選び、剥製と骨格を用いた展示)・まとめ



骨格標本への登録番号書入れ

当館での学芸員実習受入は久しぶりで、私が担当したのは初めてでした。十分な実習メニューを提供できるのか不安もありましたが、実習生の皆さんは提供したメニューにとっても熱心に取り組んでいました。次のページに、実習生の感想を紹介します。

実習生の感想

泉水 彩花

(大学院総合人間自然科学研究科農学専攻2年)

本実習では、実際に横倉山自然の森博物館で行われている学芸員業務の多くを体験させていただくことができました。骨格標本の作製から実際の展示物とキャプションパネル作成、資料情報の入力や横倉山に設置している野生動物の観察用定点カメラのデータ回収、バックヤード見学ツアーの実施など、その業務が多岐にわたっており、学芸員には様々な能力が要求されることを実感しました。また、横倉山自然の森博物館は対象としている横倉山の麓に館があることから、横倉山のビジターセンターとしての役割をもつなど、地域や対象分野との距離が近いからこそできることがある



展示解説ラベルの作成

と学ぶことができました。本実習を通じて、地域に根差した博物館施設の重要性とその価値、そこで要求される能力について学ぶことができました。このように貴重な実習の機会をいただきましたこと、またご指導ご鞭撻をいただきました谷地森秀二様にこの場を借りまして心より感謝申し上げます。

安藤 凌 (理工学部4年)

5日間の実習で野外のフィールドワークから館内での作業に至るまで、専門的かつ実践的な経験をすることができました。実習全体を通して感じたことは、学芸員の仕事が地道な実地調査の積み重ねを基に成り立っているということです。例えば、実習では骨格標本作りや、横倉山に設置した定点カメラの回収作業を経験しました。どの実習も精神的に、あるいは体力的に根気を必要とするものでした。しかし、こうした地道なデータの蓄積をなくして自然科学は成立しないため、根気強く調査を続けることはとても重要だと思いました。横倉山自然の森博物館の常設展示や企画展示は、こうした地道な実地調査の成果を反映していると



撮影内容の確認

感じました。また、自然に囲まれた館の特徴を生かした企画イベントの様子を時折、目にすることもありました。展示、解説による教育普及は、学芸員の大切な仕事の一つです。博物館の教育普及活動が地道な研究、調査活動に裏付けされることも、実習を通して学ぶことができました。

貞野 宗威 (理工学部4年)

今回の学芸員実習では、動物の骨格標本の作製や、動物の紹介のための展示ケースの作成など、様々なことを学ぶことが出来ました。特に、骨格標本の作製の際の動物の解剖では、動物の体内の構造は複雑であるものの、適切な手順を踏むと簡単に解剖を進めることが出来ることが分かり、非常に興味深く、面白く感じました。他にも、廃校になった小学校の一部を収蔵庫として利用したり、収蔵の際に布団の圧縮袋を用いたりなど、制限された環境の中で様々な工夫をして学芸員としての仕事を行っていることを学びました。



各自、哺乳類
一種ずつの展示作製

また、実習として教わったもの以外にも、町立の博物館だからこそできることや責務など、通常の授業では学ぶことのできない現場レベルでのお話を伺うことができ、非常に有意義な時間になりました。大学を卒業するにあたって、私は学芸員として働くという選択はしなかったものの、今回の実習で学んだ多くのことを糧にして仕事や勉強に邁進していきたいと思えます。

下田 瑛索 (理工学部4年)

横倉山自然の森博物館での博物館実習を通して、博物館運営に関わる様々な業務について学習することができました。博物館の収蔵庫管理、展示手法や展示管理、事務処理など、様々な博物館運営の業務を学びました。その中でも、強烈なインパクトを与えたものは、動物標本の作成でした。標本作成では、博物館内にて保管されていた野生動物を材料としますが、実際に動物を用いて作業を行った際に感じた匂いは今も鮮明に覚えています。作業を進めていくと、更に試料の内部から匂いが溢れ、とても鼻で呼吸をできない環境でした。また、後の骨格系をキレイにする作業では、さらに強烈な匂いを放っており、「これは大変だ…」と強く思いました。その他にも、博物館での環境保全に関連し、実地での調査活動に同行することができました。普段は実験室に籠もり、フィールドワーク等を行わない私には非常に新鮮な体験となりました。他にも、様々なことを学習することができ、貴重な経験を得ることができました。今回の実習で学んだことを、今後様々なことに活かしていきたいと思っています。

澤田尚磨 (理工学部4年)

私はこの度、『横倉山自然の森博物館』の谷地森先生の下での実習にて様々なことを経験させていただきました。タヌキの解剖の実習では、直接触れることでしか得ることのできない情報がたくさんあり、それらの

情報は展示や解説を作製する際にとっても重要になってくると学びました。横倉山を登山したときは谷地森先生のガイドのおかげで横倉山の自然についてとてもよく理解でき、部屋で図鑑を読んで得る知識よりも実際に五感で感じてみる方が何倍も楽しいうえこのようにして得た知識はなかなか忘れないものです。最終日には展示作品の一つ作らせていただき、実際に展示させていただいた(アライグマを担当)。展示ケース内の構成や解説文を考える際には、どうすれば来館された方々に不自由なく、且つ楽しんで見てもらえるかをひたすらに考えました。学芸員の最も大切な仕事は資料の収集・保存ではありますが、展示や企画などによる教育は未来の学芸員や研究者を生むかもしれないとても大切な仕事であると学びました。この実習で学んだ多くのことは学芸員という職業だけでなく多くの職業に通ずることであり、とても良い経験をさせていただきました。



野外からの情報収集

最後にになりましたが、博物館館園実習の実習先として引き受けてくださり、また多くのご指導ご鞭撻本当にありがとうございました。

最後にになりましたが、博物館館園実習の実習先として引き受けてくださり、また多くのご指導ご鞭撻本当にありがとうございました。

亀田崇史（農林海洋科学部4年）

9月から11月にかけての5日間、横倉山自然の森博物館の谷地森さんに、学芸員実習（博物館館園実習）を指導していただきました。実習では、骨格標本作成のためのタヌキやアナグマの死体の解体、横倉山の生態調査のための自動撮影カメラの回収およびデータ確認、収蔵物に関する情報のデータベース化、イノシシの剥製の展示制作や博物館のバックヤード見学など、日々行っている業務の一部を体験させていただきました。

私は高知大学で、土佐あか牛（褐毛和種高知系）を飼養しながら、牛の卵子や精子、細胞を用いた研究を行っているため、博物館では、どのように野生の哺乳動物に関する調査、収集、保存、教育普及を行っているのかを、とても興味深く学ばせていただきました。学芸員さんが日々行っている業務が多岐にわたることを実感でき、今回の実習で経験したことや感じたことを忘れずに今後活動していきたいと思いました。



自動撮影装置の見回り

熊谷和音（農林海洋科学部4年）

私は今回、横倉山自然の森博物館での実習をさせていただきました。自然史博物館の類に足を運んだことがなかったため、どのような実習になるのか分からず少し不安でしたが、哺乳動物のサンプルの分解・除肉

や展示の作成などにおいて、丁寧に、細かい疑問にも答えながら指導していただきました。

除肉作業では、学校でも行う機会がないため、骨を丁寧に取り出す際の注意点やコツなどを教えてもらいながら行うことが出来ました。また、実際に除肉作業を行っている部屋や道具、サンプルが作業を行うことのできる状態になるまでの保管の仕方といった、普段は覗くことのできない環境を体験することもできました。

今回の実習を通じて、座学や学校での実習だけでは学ぶことのできないような、館内での業務や資料の保存に対する工夫、現地での作業やサンプルの取り扱い方について学ぶことが出来、学芸員へのあこがれがより一層強まりました。

高石紗希（農林海洋科学部4年）

横倉山自然の森博物館にて5日間の学芸員実習に参加させていただきました。実習期間中には、野生動物の骨格標本作りや横倉山でのサンプルの回収、骨



実習生がつくったニホンリスの展示

格標本のナンバリングなど様々な業務をさせていただきました。初めての挑戦ばかりでした。特に、印象的だったのは、実際に横倉山の空池まで登り、設置してあるカメラのSDカードを回収するフィールドワークです。自然史博物館ならではの業務はとても楽しかったです。実習を担当していただいた学芸員の谷地森さんには、たくさんのお話を聞かせていただきました。専門的なお話は興味深く、どんな質問にも笑顔で答えてくださる姿には憧れました。

実習の最終日には、自分が考えた展示方法ではなく製の展示を作りました。キャプションの書き方や文字の大きさ、はく製の位置など、自分がこれまでに学んできたことを意識した展示ができました。

慶田花 蒼（農林海洋科学部4年）

私は動物と自然が好きということ、また、新型コロナウイルスの影響で当初予定していた博物館で実習を行うことができなくなったこともあり、横倉山自然の森博物館での実習に参加させていただきました。短い期間ではありましたが、博物館の使命である「収集、保管、研究、展示」について学び、学芸員の方がこの使命についてどのように向き合っているのかを間近に体験させていただきました。今回の実習で特に印象に残ったのは、キツネについて展示を考え実際に展示していただいたことです。対象年齢に適した言葉選びや、老若男女関わらず展示を見ることができるようにと試行錯誤しました。今回の実習で学んだことを自分や周囲の人に還元していきたいと思っています。

最後になりますが、急なお願いにもかかわらず実習を受け入れていただき熱心なご指導をしてくださった谷地森先生を始め、横倉山自然の森博物館の皆様へ感謝いたします。ありがとうございました。

博物館行事

横倉山の生きもの調べ「巣箱を使う動物」

2020年11月15日(日) [講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:6名]

博物館のまわりで巣箱と自動撮影装置を設置して、樹上にすむネズミとリスの仲間を調べました。参加者が巣箱をしかける木を選び、その巣箱に向けて自動撮影装置をしかけて撮影をしました。約1か月間の撮影期間を経て装置を回収して、撮影内容を確認したところ、残念ながら狙っていたヒメネズミやヤマネ、ニホンリス、ニホンモモンガは撮影されませんでした。2021年度は、設置する範囲を広げて再挑戦します。



企画展「みるみるみる展」

2020年12月19日(土)~2021年1月31日(日)

入場者数 974名

展示から文字を取り除いたら、資料をもっとよくみてもらえるようになるのではないかと考えた企画展です。順路に従って展示をみていただくようにして、会場からはできるだけ文字をなくしました。さらに会場を暗くして懐中電灯で資料を照らしてみようにしました。



出口には、展示した資料それぞれの説明を示した解説書を用意しました。「みる」ことで、興味と疑問を持った方は、その解説書を手を持って再度展示を見てもらいました。

横倉山の生きもの調べ「自動撮影」

2020年12月20日(日) [講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:9名]

横倉山にすむタヌキ、アナグマ、ハクビシンなどを狙って、博物館のまわりに、自動撮影装置をしかけました。参加者自身で動物が通りそうところを探して、「ここだ!」という場所に向けて自動撮影装置を設置。約一ヶ月の間、撮影を行いました。その結果、狙いどおりにタヌキ、ハクビシン、ノウサギが写りました。ただ残念ながら設置した自動撮影装置の半分である2台の調子が悪く、撮影がほとんどできていない場所がありました。

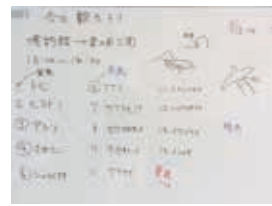


横倉山の生きもの調べ「冬の鳥たち」

2021年1月17日(日) [講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:10名]

横倉山の森林に暮らす鳥、仁淀川のまわりの水辺に暮らす鳥、冬を越すために渡って来た冬鳥などを観察しました。まず始めに双眼鏡の選び方と使い方をお伝えし、そのあと観察に出かけました。冬になると博物館の駐車場にやって来る特定外来生物のソウシチョウや、

水辺のアイドルであるカワセミは観られませんでした。一方で、冬越しのために日本にやってきた100羽以上のアトリの群れを、宮の前公園で観察することができました。



ポスター発表展「横倉山生物総合調査中間発表」

2021年2月2日(火)~2月28日(日)

入場者数 325名

四国自然史科学研究センターが主催し、当館も協力している横倉山生物総合調査の中間発表が行われました。今回の発表では、これまで横倉山ではあまり調査がされていなかったクモ類、ザトウムシ類、変形菌類なども含む10分野の報告がありました。会場には調査結果を示したポスターが並び、来館者は興味深くご覧になっていました。2月28日の午後には調査メンバーが集まり、ポスター内容の解説とメンバー間の情報交換が行われました。本活動は、令和2年度高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金を受けて実施されました。



博物館教室「シカの様子」

2021年2月21日(日) [講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:11名]

植物の宝庫である横倉山にも数年前からニホンジカが確認されるようになってきました。講座では、貴重な植物がニホンジカに食べられないように防鹿ネットが設置されたこと、自動撮影装置を使ってネットのまわりに来るニホンジカを調べていることなどを紹介しました。あわせて、イノシシ、ウマ、日本各地のニホンジカの骨を見比べてもらったり、糞の形や毛皮のさわり心地を確認してもらったりして、ニホンジカへの理解を深めてもらいました。



企画展「収蔵資料展 一鳥編一」

2021年3月2日(土)~4月4日(日)

博物館で収集してきた資料を紹介するための企画展です。今回紹介する資料は鳥類としました。当館には独自に収集した標本に加えて、四国自然史科学研究センターより寄託されている標本があります。本剥製、仮剥製、骨格を合わせた100点の資料を一気に展示公開しました。博物館が地域の自然史科学情報の証拠を保管し、それらを次代に引き継ぐ機能をもつ施設であることをつたえ、見学者にはその意義について考えてもらいました。



友の会だより

よその博物館見学「面河山岳博物館と面河溪」 2020年11月3日(火)〔参加者:15名〕

当館とオフィシャルパートナー協定を結んでいる愛媛県久万高原町立面河山岳博物館と、面河溪へ

行きました。まずは面河溪にて、面河山岳博物館職員である山路稜子さんにご案内いただきながら、植物や岩石、面河溪の成立ちな



どについての解説を聞きました。参加者の皆さんは、紅葉が始まった面河溪を堪能されていました。その後、博物館を見学し、矢野真志学芸員から館の成立ち、展示の見どころなどについて説明をいただきました。

おちぞら★冬の星観察会

2021年1月14日(水)〔講師:尾崎知子(横倉山自然の森博物館職員)、参加者:4名〕

今回も環境省が取り組んでいる「令和2年度冬の星空観察」の「天の川観察シート」にならって観察を行いました。空には少し雲がかかっていましたが、冬の大三角と冬のダイヤモンドの1等星たちと2つの流れ星を見ることができました。今回は望遠鏡

を使わず、肉眼と双眼鏡で星空の散歩を楽しみました。



横倉山勉強会

「シカの防鹿柵視察 第三駐車場～空池」

2021年2月7日(日)〔講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:12名〕

第三駐車場から空池までの間に設置された自動撮影装置の点検

と、植物を守るために空池の周囲に設置された防鹿柵の状況確認をしながら、横倉山の生きも



のについての勉強会を開きました。道々、100 m毎に携帯電話の電波受信状況も記録しました。このデータは、これから作ろうと考えている登山マップに反映させる予定です。杉原神社近くの自動撮影装置から回収したSDカードには、ニホンモモンガが頻繁に記録されていました。

おちぞら★横倉山で星空さんぽ～カノープスを見に行こう

2021年3月3日(水)〔講師:尾崎知子(横倉山自然の森博物館職員)、参加者:10名〕

カノープスは、21個ある1等星のうち2番目に明るい星です。日本からは観測が難しいため、観ると長生きをするといわれている縁起のよい星です。越知町では横倉山からこの星を観ることができ

ます。観察会当日の空には雲が広がっていましたが、南の山際の雲が晴れ、わずかに観ることができ、参加者からは歓声があがりました。



標本作製講座「蛇と羽の日 ～へびの液浸標本と鳥の羽毛標本作製講座～」

2021年3月13日(土)・14日(日)〔講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:13日21名・14日18名〕

博物館で研究用に保管したり、展示や教育活動に利用したりするための生物標本の作り方を学ぶ講座です。



「羽」は、ガラスにぶつかって死んでしまった鳥の体から風切羽と尾羽を抜いて、きれいな台紙に並べて貼った羽毛標本をつくりました。「蛇」は、冷凍保管していたへびを解凍して、全長と性別を記録した後、液浸標本(アルコール浸け標本)をつくりました。四国にすむ8種のへびを紹介しながら、奄美大島産のハブも標本化しました。本活動は、令和2年度高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金を受けて実施しました。

横倉山ミニ歳時記

■情報が増えてきたニホンモモンガ

夜に活動するリスのなかまです。よく似た動物であるムササビと間違われる時がありますが、大きさが全く違います。手足を広げるとムササビはひろげた座布団、ニホンモモンガはハンカチくらい感じです。高知県ではムササビは山の上から海の近くまで住んでいることがわかっていますが、ニホンモモンガは標高 800m 以上の地域でしか見つかっていませんでした。ところが、最近の調査で比較的標高が低い横倉山にもニホンモモンガがいることがわかりました。現在、横倉山で動物を調べるために木に巣箱をかけて、そこに向けて自動撮影装置をおいて撮影しています。この方法で横倉山の第三駐車場の近く（標高 620m）、杉原神社のまわり（標高 680m）、安徳天皇陵墓参考地の近く（標高 780m）の3ヶ所でニホンモモンガが写りました。杉原神社のまわりの木にはムササビがたくさんすんでいます。そこでニホンモモンガも確認されました。同じような生活をするムササビとニホンモモンガの両方がすんでいる場所は、全国的にもめずらしいと思います。横倉山の新たな魅力です。



〔博物館日誌(抄)・令和3年度上半期博物館行事予定〕

企画展

- 12月19日(土)～1月31日(日)
みる みる みる展
- 3月2日(土)～4月4日(日)
収蔵資料展－鳥編－
- 4月24日(土)～5月30日(日)
日本の生物多様性とその保全
- 6月5日(土)～6月13日(日)
高知県写真家協会展「土佐」選抜移動展

ポスター発表展

- 2月2日(火)～2月28日(日)
横倉山生物総合調査中間発表

自然観察会「横倉山の生きもの調べ」

- 11月15日(日) 巣箱を使う動物
- 12月20日(日) 自動撮影
- 1月17日(日) 冬の鳥たち
- 4月18日(日) 土の中の虫たち
- 4月25日(日) 植物の宝庫 横倉山
- 5月15日(土) カエルの夕べ
- 6月20日(日) 夏の鳥たち
- 9月19日(日) 水の生きもの

講座「博物館教室」

- 2月21日(日) シカの様子
- 4月17日(土) 横倉山のどうぶつ
- 5月9日(日) 横倉山のカエル

標本作製講座

- 4月～9月は日程調整中
骨格標本・液浸標本・羽毛標本など

その他

- 期間調整中
移動博物館「土佐市で観察された鳥たち」
会場：土佐市複合文化施設つなーで

〔博物館友の会『フォレスト・クラブ』日誌(抄)〕

・令和3年度上半期行事予定〕

おちぞら★

- 1月13日(水) 冬の星観察会
- 3月3日(水) 横倉山で星空さんぽ～カノープスを見に行こう～
- 8月上旬 夏の星観察会
(開催日は、環境省の予定に合わせます)

よその博物館見学

- 11月3日(火) 面河山岳博物館と面河溪
- 5月23日(日) 新・足摺海洋館 SATOUMI
- 9月25日(土) 佐川地質館

横倉山勉強会

- 2月7日(日) シカの防鹿柵視察 第三駐車場～空池
- 6月27日(日) ヒメボタル観察会

仁淀川勉強会

- 6月5日(土) 仁淀川水質調査

標本作製講座

- 3月13日・14日 蛇と羽の日
～へびの液浸標本と鳥の羽毛標本作製講座～
- 4月～9月は日程調整中 骨格標本・液浸標本・羽毛標本など

※〔●〕印のイベントは終了。

〔○〕印のイベントは、これから開催。但し、新型コロナウイルス感染状況によっては、中止の場合があります。

高知県越知町立

横倉山
自然の森博物館



THE YOKOGURAYAMA
NATURAL FOREST
MUSEUM, Ochi

〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737番地12
TEL0889(26)1060 FAX0889(26)0620
http://www.town.ochi.lg.jp/

- 開館時間：午前9時より午後5時まで
最終入館は午後4時30分
- 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
12月29日から翌年の1月3日まで
- 入館料：大人……………500円(※各20名以上)
高校・大学生……………400円(上の団体は
小・中学生……………200円 100円引き。)
- 越知への交通
高知——JR特急 約30分——佐川——バス 約15分——越知
JR普通 約50分

